教育研究業績書

2025年05月07日

所属： 看護学科　　資格： 准教授　　氏名： 岩﨑　幸恵

研究分野	研究内容のキーワード
老年看護学,基礎看護学	高齢者,皮膚,褥瘡,褥瘡予防,看護技術
学位	**最終学歴**
博士（看護学）	大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻　博士前期課程 武庫川女子大学大学院看護学研究科看護学専攻　博士後期課程

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
1.大学院修士課程の主指導	2023年4月から現在	大学院修士課程の主指導として、当分野では現役看護職の大学院生が多く入学してくるため、臨床での経験や知識を尊重しつつ、理論知に繋げていけるよう指導を行っている。
2.共通教育科目における高齢者看護理解のための授業の工夫	2022年4月から現在	大学共通教育科目「学び発見ゼミ」「現代社会と保健医療」の講義を担当した。学び発見ゼミでは、少人数の受講生であったため、ディスカッションやプレゼンテーションを積極的に実施し、視聴覚教材も活用しながら、他学部の学生にも高齢社会の現状について教授することができた。現代社会と保健医療についても、オンデマンド方式の講義ではあるが、わかりやすいスライド作成をこころがけ、認知症当事者の体験談が視聴できるサイトを紹介し、オンデマンド方式の講義でもより理解が深まるような工夫を行った。
3.大学院修士課程の副指導	2021年4月から現在	大学院修士課程の院生の副指導として、ゼミでのディスカッションを通して、研究方法の指導や論文作成、物品管理などのサポートを行っている。
4.初学者にもわかりやすい看護統計法の授業の工夫	2021年4月から現在	大学院修士課程の授業として、オムニバスで看護統計法を担当している。大学教員から現役の看護職など背景や経験が様々な大学院生に対し、複数のテキストを使用しながらスライドを作成し、実際のデータにも触れられるような授業になるよう工夫を行っている。
5.初学者に対する臨床や看護が想起しやすい授業の工夫	2021年4月から現在	学部1年生の専門科目、疾病治療概論をオムニバス形式で担当している。1年生前期に開講されているため、身体と疾病に興味が持てるよう、イラストなどを多く使用したスライド作成や、90分の講義形式にも慣れるよう、講義内容に緩急をつけ、講義内容に沿った臨床現場の現状や、自身の臨床での体験談を用い、興味をもって受講できるよう工夫をしている。
6.広域実践看護学特論の授業	2020年9月から現在	大学院修士課程の授業として、高齢者に関する最新のトピックスや統計データなどから考えられる現状や課題について、授業を行っている。授業では現役の看護職が臨床で体験している高齢者看護についての現状や課題もディスカッションを通して共有し、経験知と理論知が向上できるような授業運営を行っている。
7.高齢者の加齢変化の理解の為の演習の企画・運営	2020年9月から現在	学部2年生後期に開講されている老年看護学Ⅰの講義の中で、高齢者体験の演習を実施している。高齢者の加齢変化を理解することにより、高齢者看護への理解を深める一助となる。演習内容としては、円背などが体験できるスーツの着用、杖の使用や視聴覚の変化が体験できるゴーグル、イヤマフを装着し、階段の昇降やトイレでの排泄行動の実際を体験している。学生は看護師役、高齢者役などを担当し、様々な視点から体験できるように工夫している。
8.実習オリエンテーションの運営	2020年4月から現在	学部3年生後期から4年生前期に開講されている老年看護学実習ⅠおよびⅡの実習オリエンテーションを担当している。実習施設数が多いため、各施設の資料を作成し、施設の特徴なども説明することにより、よりスムーズに実習に導入できるよう工夫している。

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
9.高齢者理解のための夜間実習の実施	2020年4月から現在	学部4年生の統合看護学実習において、他分野では体験できない夜間実習を実施している。これは、認知症を抱える高齢者の日内変動を理解することや、ナイトケア、危機管理など夜間特有の高齢者やスタッフの関りを知ることができる。この実習を実現するために、看護職にも夜間に帯同していただけるよう、施設側との調整を主に担っている。
10.視聴覚教材などを活用した実習の実施	2020年4月から現在	学部3年生後期から4年生前期に開講されている老年看護学実習Ⅰにおいて、高齢者施設を対象とした実習であることから、臨地での実習の中止や、中断などが発生した。そこで、動画などの視聴覚教材を実習目標に合わせて選定し、動画視聴、いきいき体操の実施、高齢者に対する24時間を想定した看護ケア計画書の作成やレクリエーションなどを実施した。遠隔実習の際には、画面越しに教員に対してレクリエーションを実施する事となったが、オンラインならではの演出を行った学生もおり、新たな視点を得られる実習を行うことができた。学内実習が可能となった際には、西宮市シルバー人材センターの会員を招聘し、レクリエーションの実施ができるよう計画した。2023年度は、数年ぶりに全施設において臨地実習が再開となったが、実習人数の制限が一部の施設で発生したことにより、引き続き視聴覚教材も使用し、学内実習を行っている。学生が苦手とする関係法規や社会資源に関する実習のため、学内実習の際には知識が補填できるよう講義を行っている。
11.卒業研究における卒業論文の指導や就職支援・国試対策の実施	2020年4月から現在	学部4年生の卒業研究受講者に対し、主に文献レビューの手法を用いた研究についての指導を行っている。学生のこれまでの経験や実習などを通して得られた興味や疑問を論理的に整理ができるよう、指導を行っている。スムーズに研究が進むよう、導入として3年生と4年生のゼミ生交流を企画し、卒業研究や就職活動、国試対策などについての情報交換ができる機会を設けている。就職支援については、履歴書の作成や面接練習を行い、希望する施設や企業への就職ができている。また、国試対策については、Classroomを活用し、過去問題を配信しており、学生の希望もあり丹嶺学苑での研修も実施している。
12.地域高齢者との交流の企画・運営	2020年4月から現在	学部3年生前期に開講されている老年看護学Ⅱの演習内容として、西宮市在住の高齢者との交流を企画・運営している。老年看護学Ⅱは3年生前期に開講されていることから、分野別実習で多くの高齢者と関わることを想定し、高齢者の理解やコミュニケーション方法の取得を目指している。演習には西宮市シルバー人材センターの会員にお越しいただいており、その調整役も担っている。
13.ICTを活用した双方向性の授業展開	2020年4月から現在	学部3年生前期に開講されている老年看護学Ⅱの授業において、主に高齢者の看護過程の展開についての講義を担当している。対面授業が困難であった時期には、GoogleMeetを活用し、遠隔にて高齢者の加齢変化を踏まえた看護過程の展開の演習を行った。演習中にも質疑に対応できるよう、チャット機能や質問時間を設けるなどの工夫を行った。対面授業が再開されてからは、グループダイナミクスの形成のために、ワーク前にフリートークテーマを設定するなどの工夫を行った。また、GoogleFormにてリフレクションシートを設定し、授業に対する質問や意見を収集して、Classroom内や講義内で対応するようこころがけている。
14.模擬カルテを活用した遠隔実習の実施	2020年4月から2022年3月	学部3年生後期から4年生前期に開講されている老年看

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
		護学実習Ⅱにおいて、感染状況により病院実習が困難となり遠隔実習を行った際、実習前に事前に模擬患者の紙カルテを作成し、学生へと送付した。紙カルテには病院で実際に使用していた紙カルテを再現し、日々の熱型から、多職種によるリハビリ指示書、各種検査データまで実際に実習で情報収集を行う内容について詳細に作成した。その内容を基に、看護過程を展開し、毎日定時にClassroomから実習当日の患者のイベントやバイタルサインなどの情報を配信し、翌日の計画に反映できるような工夫を行った。また、GoogleMeetを活用し、教員が模擬患者となり、学生が退院指導できるような工夫を行った。病院実習と同様に毎日遠隔でカンファレンスを実施し、思考の整理や知識の補足、ディスカッション能力の向上を図り、実習目標が達成できるよう工夫した。
15.1年生の初期演習Ⅰ・Ⅱにおける授業の運営	2020年4月から2021年1月	看護学部1年生の担任として、初期演習ⅠおよびⅡを担当した。大学のプログラムを活用しながら、看護学部の特性が理解できるよう、また、キャリア形成にも繋がるように、各看護職（看護師・助産師・保健師）の資格をもつ教員からの講話を取り入れるなどの工夫も行った。
16.国家試験などにも関連させた授業展開	2016年4月1日から現在	武庫川女子大学看護学部着任時より、授業テーマに関連のある国家試験問題を授業中に回答させた。その方法として、大学が契約しているweb教材を活用した。この方法は授業中だけではなく、その他の時間にも活用できるよう提案することで、授業内容の復習と共に国家試験対策にもなり学力向上に貢献できると考える。
17.看護学実習における学生指導の工夫	2012年4月から2016年3月	大阪府立大学看護学部における実習指導では、学生の受け持ち患者は高齢者が多く、実習病棟は脳神経外科、神経内科、呼吸器外科、呼吸器内科、総合内科であったため、脳血管疾患や、パーキンソン病等の神経疾患、肺癌、慢性閉塞性肺疾患等の対象者の看護の学生指導を行った。また、脳血管疾患後のリハビリテーション、化学療法、放射線療法、緩和ケア等についても、学生が理解しやすいような指導を工夫した。
2 作成した教科書、教材		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1.大阪南医療センター　ケーススタディ講師	2013年9月から2014年2月	大阪南医療センター2年目看護師を対象に、ケーススタディーの指導を行った。2014年2月には発表会にも参加し、講評を行った。
2.学習効果を高めるための体験型学習の導入、レポート課題を活用	2013年4月1日から2016年3月31日	基礎看護技術学の担当授業内にて、テキスト教材に加え、実際に臨床現場で用いられている物品などを紹介し、初学者である学生に対し、より臨床現場がイメージできるように体験型学習を取り入れた。それらに加え、授業後にレポート課題を提示し、フィードバックを行うことで、学習効果を高める工夫を行った。
3.大阪大学医学部附属病院　消化器内科、東11階病棟に看護師として勤務し、地域連携コンサルテーション数向上のための工夫	2007年4月から2012年3月	消化器内科全般であったため、若年から高齢者まで幅広い年齢層が対象となっていた。このため、発達段階や加齢に伴う変化などに関しては色々な視点から学ぶことができた。その中でも、高齢者が多く、悪性腫瘍や癌に対しての治療を積極的に行う病棟であったため、放射線療法や化学療法、緩和ケアやターミナル期の看護に関しては、積極的に実践してきた。特に緩和ケアは、他職種とも連携しながら関わる事ができ、大変勉強になった。地域連携に関しては、保健福祉ネットワーク部とも協力し、他の病棟よりもコンサルテーション数に関して高して実績もある中で学んできた。多かった疾患名は、肝臓がん、すい臓がん、胃がん、

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
		食道がん、大腸がん、炎症性腸疾患等であった。
4.岡山県岡山市　株式会社 メッセージ　有料老人ホームアミーユ（勤務地弁天町　難波稲荷　天下茶屋）における接遇面に着目した看護の提供	2005年8月から2006年11月	株式会社が運営する施設での勤務では、イベントやケアプランに沿ったケアの充実など特に接遇などの面で、入所者目線に力を入れたサービスの提供を行った。様々な経営母体の施設に勤務することにより、提供するサービスの視点の違いや、入所者及びその家族のニーズの多様さを感じる事ができた。病院での勤務と違い、医師も常駐せず、入所する高齢者全員の健康管理や急変時の対応など、施設で勤務する看護師の責務などについても学ぶ事ができた。
5.岡山県高梁市　医療法人 清梁会　高梁中央病院　療養型病棟における家族へのケアやレクリエーションの企画・実施	2004年6月から2004年11月	地域性の高い療養型病棟での勤務で、患者とその家族に対し、看護を提供してきた。入院期間も長期にわたるため、家族との関わりの重要性を再認識できた。疾患に対しての看護も必要であったが、特に食事や入浴、リハビリテーション、胃瘻のケアなどの日常生活援助や、歌、手芸などのレクリエーションの企画・実施も行った。
6.大阪府大阪市　社会福祉法人 四天王寺福祉事業団　特別養護老人ホーム　四天王寺きたやま苑　准看護婦として勤務し、褥瘡予防や認知症ケア、多職種連携についての勉強会を開催	2001年10月から2002年3月	特別養護老人ホームでの勤務で、老年看護学分野への興味を持つきっかけとなった。主に、入所者の健康管理や治療・処置の介助に加え、介護職が行うケアなどにも積極的に参加し、情報提供や、褥瘡予防についての知識の提供なども行い、他職種連携にも積極的に取り組んだ。看護・介護度の高い高齢者との関わりが多く、褥瘡予防という現在の自身の研究テーマへの動機付けにもなり、非常に良い経験となった、デイサービス部門でも勤務することもあり、寝たきりや認知症の対象者から自立している高齢者まで、幅広く関わる事ができた。
4 その他		
1.付属高校　科学探求Ⅱの授業の実施	2022年9月	付属高校が開講している科学探求Ⅱの授業を担当した。高齢者に関する統計データなどの現状をミニ講義として実施した後、加齢変化を体験できる演習を企画・運営した。
2.実習の計画・調整	2020年4月から現在	学部3年生後期から4年生前期に開講されている老年看護学実習ⅠおよびⅡに関しての実習要項作成、実習ローテーション表の作成、実習施設との調整を行っている。
3.高校への出張講義・入試説明の実施	2020年4月から現在	大学の広報活動として、毎年1～2校の高校へ看護職についての説明や看護学部の紹介、講義内容などを紹介する活動を行っている。
4.看護学部7期生の担任	2020年4月から2023年3月	看護学部7期生Bクラスの担任として、入学前より合理的配慮学生の面談や各部署への情報提供を行った。
5.高大連携入学前授業の実施	2020年2月	看護学部7期生の担任着任前年度に、付属高校の入学前授業を実施した。推薦入試で入学予定の学生や、看護に興味のある学生20名程度を対象に看護学部の紹介や、大学での生活、看護職についての授業を行った。

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
1.保健師免許	2014年3月13日	登録番号：第224643号
2.看護師免許	2004年6月24日	登録番号：第1292931号
3.准看護師免許	2001年3月15日	登録番号：第59827号
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1.大阪大学医学部附属病院臨床実習指導者	2011年4月から2012年3月	大阪大学医学部保健学科3回生及び4回生の成人看護学実習を受け入れ、指導を行った。コミュニケーション方法などに関してのロールプレイを企画し、理解を深める指導を行った。

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
4 その他		
1.看護学部自己点検評価ワーキングメンバー	2023年4月から現在	看護学部自己点検評価ワーキングメンバーとして、主に学部の国家試験対策についての項目について、主体的に評価している。
2.まぁいいかcafe企画・運営補助	2022年4月から現在	認知症を抱える高齢者がスタッフとして活躍するカフェを運営している京都のまぁいいかcafeと、Lavyscafeを運営する企業である株式会社ライフイノベーション、武庫川女子大学が共同し実施している認知症カフェ、「まぁいいかcafe」の企画・運営補助を担当している。
3.看護学部国家試験対策委員会副委員長・委員長	2022年4月から現在	看護学部国家試験対策委員副委員長として委員長のサポートや学生の面談、教員FDを実施し、2023年度からは委員長として委員会の運営やFD、業者との調整を担当している。
4.西宮市保健所支援プロジェクトメンバー	2021年4月から2022年5月	西宮市保健所支援プロジェクトメンバーとして、実際に保健所支援業務に従事した他に、教員のシフト調整や保健所との調整を担当した。
5.看護学部実習委員会	2020年4月から現在	看護学部実習委員として、各種オリエンテーションの運営や実習指導者運営委員会・研修会などの運営などを担当している。
6.看護学部自己評価点検委員会	2020年4月2022年3月	看護学部自己評価委員として、学部の自己点検評価のとりまとめや、卒業生アンケートの作成を担当した。
7.武庫川女子大学　まちの保健室	2019年4月から現在	武庫川女子大学看護学部が開催するまちの保健室において、来場者の健康相談や各種測定業務を担当した。
8.看護学部国家試験対策委員会	2017年4月から2020年3月	看護学部の国家試験対策委員として、担当学生の面談や受験に関するサポートを担当した。
9.看護学部学生委員会	2016年4月から2018年3月	武庫川女子大学看護学部の学生委員として、体育祭の応援合戦のサポートや、学部卒業式の運営、謝恩会の学生サポートを担当した。

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
2 学位論文				
1.標準体型及び肥満体型高齢者の臥床時における 頭部挙上角度の違いからみた仙骨部・臀部血流量の比較（博士論文）	単	2020年3月	武庫川女子大学大学院看護学研究科	標準体型及び肥満体型高齢者が頭部挙上角度の違いにより、仙骨部、臀部血流量ににどのような影響を及ぼしているのかを明らかにする事を目的とし以下の研究を行った。【第1研究】標準体型高齢者の臥床時における頭部挙上角度の違いからみた仙骨部・臀部血流量の比較【第2研究】肥満体型高齢者の臥床時における頭部挙上角度の違いからみた仙骨部・臀部血流量の比較【結論】１．標準体型高齢者に対しての褥瘡予防体位は頭部挙上25度以下が望ましいのではないかという事が示唆された。２．肥満体型高齢者に対しての褥瘡予防体位は頭部挙上20度以下が望ましいのではないかという事が示唆された。
2.高齢者の体型の違いからみた頭部挙上３０度における臀裂部圧迫状況（修士論文）	単	2007年3月	大阪大学大学院医学系研究科	シルバー人材センターに登録する高齢者を対象に、肥満体型、標準体型、やせ型体型の3群に分け、頭部挙上30度の体位をとり、臀部血流及び体圧を経時的に測定した。体型別に考察を行った結果、各群に特徴的な血流及び体圧変動があることが示唆された。
3 学術論文				
1.高齢者の閉じこもりの概念分析（査読付き）	共	2022年7月	日本健康医学会雑誌31(2),pp170-180	高齢者の閉じこもりの定義と特徴を明らかにし，閉じこもり改善に向けた介入方法を検討することを目的として，「高齢者の閉じこもり」を主題とした 31 の日本語文献を対象に Rodgers の概念分析を行い,属性，先行要件，帰結を明らかにした。属性は 4 つのカテゴリー，先行要件は 6 つのカテゴリー，帰結は 4 つのカテゴリーによって構成されていると判断した。属性の 4 つのカテゴリーにもとづき，高齢者の閉じこもりを「加齢変化の影響を受けて移動能力が低下し外出できないこと，あるいは，移動能力はあるが本人の意思で外出しないことにより，生活活動範囲が自宅に限定され，外出頻

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
				度が週 1 回未満の状態」と定義した。先行要件の 6 つのカテゴリーから高齢者の閉じこもりは身体的・精神的・社会的な要因が相互に関連することで発生し，帰結の 4 つのカテゴリーから閉じこもりとなった結果，身体・精神機能の低下，社会とのつながりの減少が引き起こされると考察した。閉じこもり改善に向けた介入として，移動能力や外出意欲を向上させ，生活活動範囲を広げ週 1 回以上は外出することが重要であることが示唆された。閉じこもりによって生命の危機的状態を回避するためには，医療の知識のある看護職は積極的に見守りを行いながら，身体・精神機能の低下を見極め，タイミングを逃さないように介入することが重要であると考える。また，閉じこもりが及ぼす影響を伝え行動変容を促す介入も重要であると考える。 本人担当部分：データ分析補助（担当頁特定不可能） 共同著者名：桧山美恵子、徳重あつ子、 岩﨑幸恵
2.高齢者の点眼失敗要因に着目した椅子の背もたれ 使用による点眼姿勢の比較（査読付き）	共	2022年4月	バイオメカニズム学会誌46(2),pp95-103	高齢者の普段の点眼姿勢の実態調査に加え，高齢女性に背もたれの有無で点眼を行ってもらい，点眼動作の動作解析を行った．動画より，点眼時の頭部後傾角度，肘関節角度，体幹後傾角度，点眼容器角度を測定し，背もたれの有無と点眼の成否，点眼液滴下の位置ずれを比較した．背もたれ無しでは，失敗事例で有意に頭部後傾角度が小さく，背もたれを使用すると点眼時に体幹が後傾し頭部が後傾しやすくなり，点眼時における滴下の位置ずれや点眼容器先端との接触による失敗リスクの軽減が望めた ．背もたれを使用した点眼姿勢は安全で実施しやすい方法であり，点眼指導に取り入れることが可能であると言える． 本人担当部分：実験方法の検討、分析方法の検討（担当頁特定不可能） 共同著者名：工藤大祐、徳重あつ子、片山恵、田丸朋子、 岩﨑幸恵
3.肥満体型高齢者の頭部挙上角度の違いからみた仙骨部・臀部血流量の比較（査読付き）	共	2020年4月刊行予定	日本健康医学会雑誌	シルバー人材センターに登録する標準体型高齢者14名を対象に頭部挙上20度時、25度時、30度時の仙骨部・臀裂部・左右臀部の4ヶ所の血流量を測定した。結果及び考察として、頭部挙上20度では、圧迫によるうっ滞は認めたが、血流量の減少は認めず、各部位に褥瘡発生につながる要因は認められなった。頭部挙上25度においては、圧迫によるうっ滞の後、20分経過後より血流量の減少が左臀部を除く部位においてみられていた。頭部挙上30度では、特に左右臀部にうっ滞の程度も大きく、その後の現象も他の角度よりみられた。これらより肥満体型の高齢者においては、褥瘡予防のための挙上角度として30度ルールを適応すると、特に臀部に負荷をかける可能性があると考えられた。 本人担当分：研究総括、データ収集・分析 共同著者名： 岩﨑幸恵 、杉浦圭子、片山 恵、田丸朋子、山口晴美、徳重あつ子、阿曽洋子
4.地域包括支援センターの看護師による閉じこもり高齢者の家族に対する介入内容（査読付き）	共	2020年4月	第50回日本看護学会論文集在宅看護、pp.51-54	閉じこもり高齢者に介入したA市の地域包括支援センターの看護師のうち、同意の得られた9名を対象とした。2017年4月～7月に半構造化面接を実施し、得られたデータを質的記述的に分析した。面接内容は、介護保険サービス等を利用するために家族へどのように介入したか等である。結論として、看護師は閉じこもり高齢者の家族に対し長期間継続的に働きかけ、介護負担を軽減し、家族が主体性を持って行動し、疾患に対する理解を深め安心して介護ができるように介入していた。 本人担当部分：データ分析補助（担当頁特定不可能） 共同著者名：桧山美恵子、横島 啓子、 徳重 あつ子、 杉浦 圭子、岩﨑幸恵
5.臥床患者の背上げ後の背抜きに対する看護師の身体的負担の検証-素手による方法とグローブを用いた方法の筋活動および	共	2020年4月	日本健康医学会雑誌、29（1）、pp.61-70	20歳～50歳代の女性看護師19名を対象に、電動ベッドにおいて患者の上半身を挙上する時に生じる圧迫やずれを開放するための援助である背抜きを素手とグローブそれぞれで実施した。そして、各々の背抜き時における看護師の左右の脊柱起立筋、左右の大腿二頭筋の筋活動を連続測定するとともに、看護師が身体に負担を感じた部位および身体への負担感、患者の身体の感覚評価を調べた。その結

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
身体への負担感の比較（査読付き）				果、背抜きにおいては素手で身体を起こす方がグローブうい用いた方法より看護師の身体的負担が大きいことが明らかになった。しかし、患者の身体の感覚評価では、素手の方がグローブ装着時より圧迫感やひっぱられ感は低値を示し、身体が楽になったかについては有意に高値を示した。 本人担当部分：データ収集補助、分析方法の検討（担当頁特定不可能） 共著者名：假谷ゆかり、阿曽洋子、片山恵、 岩﨑幸恵 、木村清子
6.温熱作用に関して手浴が全身浴の代用となる可能性の検証-表面皮膚温の変化および温度感覚・快適感覚から-（査読付き）	共	2019年3月	武庫川女子大学看護学ジャーナル, 4,13-23	温熱作用に関して手浴が全身浴の代用が可能かについて、健康な女子大生18名を対象に比較検証した。方法は、全身浴と手浴を別日に実施し、湯温約40℃の全身浴及び手浴を10分間行い、その後60分間安静とした。左右の手背・前腕・下腿・足背の8箇所の皮膚温を連続測定し、温度感覚と快適感覚を調べた。結果として、手浴は全身浴の代用として有効であり、手浴の温熱作用は全身浴と比べて快適感が高い可能性が示唆された。 本人担当部分：データ収集補助、分析方法の検討（担当頁特定不可能） 共同著者名：山口晴美、阿曽洋子、田丸朋子、片山恵、清水佐知子、 岩﨑幸恵 、上田紀子
7.標準体型高齢者の頭部挙上角度の違いからみた仙骨部・臀部血流量の比較（査読付き）	共	2019年3月	武庫川女子大学看護学ジャーナル, 4,69-76	シルバー人材センターに登録する標準体型高齢者17名を対象に頭部挙上20度時、25度時、30度時の仙骨部・臀裂部・左右臀部の4ヶ所の血流量を測定した。結果及び考察として、仙骨部血流量では先行研究でも言われている通り、前期高齢者においては頭部挙上30度までなら仙骨部には負荷をかけないといった結果が実証された。また、左右の臀部経過時間別血流量では、頭部挙上25度時と30度時のベースライン血流量から一部の時間経過において血流量が有意に増加しており、臀部は圧迫を受けやすい部位でもあり血流量増加の原因はうっ滞である可能性もあることから、今後圧迫状況も踏まえた検証の必要性が示唆された。 本人担当分：研究総括、データ収集・分析 共同著者名： 岩﨑幸恵 、阿曽洋子、宮嶋正子、片山 恵、田丸朋子、山口晴美、杉浦圭子
8.The Direction of Research on Active Aging and Healthy Life Expectancy in Japan （日本におけるアクティブエイジングと健康寿命研究の方向性）（査読付き）	共	2014年4月	Open Journal of Nursing, http://www.scirp.org/journal/ojn/	日本では、2025年には団塊の世代と呼ばれる全国民の18.1％の人口が後期高齢者となるため、それを支える基盤づくりが必要である。そこで、本研究ではアクティブエイジングという側面から文献検索を行い、日本における取り組みや研究の動向を明確化し、次の研究課題を検討することを目的とした。「アクティブエイジング」と「健康寿命」の検索結果を合わせて、原著120件、総説・解説・特集213件をそれぞれ分析対象とし、全ての論文のabstractについて、テキストマイニングの手法を用いて分析を行った。その結果、原著論文からは【保健統計】、【性別】、【年齢】、【疾患】等の8カテゴリが抽出された。総説・解説・特集からは【方向性】，【疾患】、【生活】等の16カテゴリが抽出された。いずれにおいても【看護】というカテゴリは抽出されなかった。原著論文で取り扱われている疾患は、脳血管疾患と骨粗鬆症であり、これは寝たきりやQOLの低下につながりやすいことから、「アクティブエイジング」、「健康寿命」という側面では研究が多いことが考えられた。総説・解説・特集からは、疾患としては生活習慣病と更年期が抽出された。原著論文とのカテゴリの違いは、日本の研究者が国内で原著として発表せずに国外で発表している可能性が考えられた。今回の研究を行うことで、日本においては「アクティブエイジング」という用語を用いた研究がほとんど行われていないことが明らかとなった。2025年を迎えるためには、更に「アクティブエイジング」、「健康寿命」という視点での研究数を増やしていく必要性があると考えられた。 本人担当部分：分析方法の検討、データ分析を担当。 （担当頁特定不可能） 共著者名：徳重あつ子、荒木大治、鈴木みゆき、 岩﨑幸恵 、小澤みずほ
9.皮膚血液循環評価装	共	2010年5月	バイオメカニズム	褥瘡の発生予測を早期に行うために、非侵襲的な血液循環評価装置

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
置の開発とその臨床応用（査読付き）			学会誌34(2), p. 132-141	の試作開発を行い、局所皮膚領域生体熱移動モデルにより皮膚の温度伝導率を推定する手法を開発した。実証実験により、温度伝導率と血流量との間に線形相関があることを明らかにし、温度伝導率が褥瘡発生リスク要因とも関連性のあることが示唆された。本試作装置を使用した温度伝導率を用いることにより局所の皮膚血液循環状態を評価できる可能性が明らかとなった。 本人担当部分：データ収集補助（担当頁特定不可能） 共著者名：羽賀知行、伊部亜希、阿曽洋子、宮嶋正子、石澤美保子、 高田（岩﨑）幸恵 、田丸朋子、本多容子
10.ADLの維持と褥瘡予防を両立させるための体圧分散マットレスの評価ーマットレス上での起き上がり動作時の沈み込み，筋活動量，動きやすさの観点からー（査読付き）	共	2007年10月	日本褥瘡学会誌, 9(1), p.81-86	起き上がり動作時の身体の沈み込み、筋活動量、主観を分析した。汎用マットレス、ウレタンマットレスとエアマットレスを比較した結果、起き上がり動作時の沈み込みはエアマットレスが最も大きく、筋活動量は汎用マットレスが大きかった。身体が沈み込みすぎないマットレスが動きやいと評価された。ベッド上での自力動作が可能な場合は、沈み込みが小さく軟らかすぎないウレタンフォームマットレスの使用が望ましいと考えられた。 本人担当部分：データ収集補助（担当頁特定不可能） 共著者名：岡みゆき、阿曽洋子、伊部亜希、徳重あつ子、片山恵、高田（岩﨑）幸恵
11..体圧分散マットレスの安楽性と安全性の評価 －寝心地と端坐位保持中の身体安定性－（査読付き）	共	2006年3月	看護人間工学研究誌 7, p.29-35	体圧分散能力の異なる4種類のマットレス（汎用マットレス、枠無ウレタン、枠有ウレタン、エアマットレス）について、寝心地と身体安定性の評価を行った。その結果、厚みが薄めでマットレスの外縁を高密度ウレタンフォームで囲まれている枠有ウレタンが寝心地の評価が高く、汎用マットレスと同様の安全性であることが明らかとなった。褥瘡予防だけでなく安全性を考慮したマットレスを選択するための基礎資料が得られた。 本人担当部分：データ収集補助（担当頁特定不可能） 共著者名：岡みゆき、阿曽洋子、伊部亜希、徳重あつ子、片山恵、高田（岩﨑）幸恵 、前田知穂
その他				
１．学会ゲストスピーカー				
２．学会発表				
1.圧迫時の血流変化と交感神経活動との関係-高齢者を対象とした踵骨部での検討-	共	2022年12月	第42回日本看護科学学会学術集会 pp.167	ADLが自立している高齢者20名を対象に、30分間の椅坐位後、ベッド上で踵骨部の表在血流を測定（接地前）し、踵骨部を接地して（接地中）15分間、枕で踵骨部を挙上して（解放後）15分間、続けて臥床した（ウレタン製マットレスと綿製かけ布団を使用、椅坐位と臥床ともに自力体動の制限なし）。表在血流は、レーザードップラー血流計（ALF21D、アドバンス社）を用いて、臥床開始から終了まで測定し、胸部に装着した心拍・活動量記録計（Actiheart cardio, camntech社）で、椅坐位から臥床終了までの心拍変動を測定し、心拍間隔（AveIBI）とLF/HFを算出した。その結果、臥床時に交感神経活動が小さくなる方がマットレス接地時の血流量の減少が大きく、臥床時に心拍間隔が延長する方が接地から解放した時の血流量の増加が小さい可能性が示唆され、自律神経活動が圧迫時の血流変化に影響していることが考えられた。 本人担当部分：データ収集・分析補助（担当頁特定不可能） 共同著者名：伊部亜希、林愛乃、片山恵、藤本かおり、 岩﨑幸恵 、石澤美保子、宮嶋正子、阿曽洋子
2.高齢維持血液透析患者に関わる看護師の倫理的問題と対処の実態	共	2021年11月	第24回日本腎不全看護学会学術集会・総会、p.37	全国の維持透析施設で働く透析看護経験 5 年以上看護師を対象に、郵送法による自記式質問用紙を用いた量的横断的調査を実施した。調査項目は、基本属性、透析継続の意思決定支援経験、「維持血液透析の開始と継続に関する意思決定プロセスの提言 2014」の認知度・理解度、倫理学習経験の有無、施設の倫理対策、看護師の倫理的問題 35 項目の体験頻度と対処、道徳的感受性とした。その結果、意思決定支援経験より「提言」の理解度が低いことから、知らない状態で支援している看護師の存在が考えられた。また、倫理的問題の体験頻度は低く、倫理カンファレンスや研修の開催割合も低いことから、倫理的問題に気づくための倫理教育と、対処するため

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
				の話し合いの場の設置の必要性が示唆された。 本人担当部分：データ分析補助（担当頁特定不可能） 共同著者名：山中晶子、徳重あつ子、 岩﨑幸恵 、杉浦圭子、山本久代、小柴隆史
3.高齢摂食嚥下障害者の退院後の生活における介護者の困り事からみた継続看護の必要性	共	2021年8月	第26・27回合同学術集会　日本摂食嚥下リハビリテーション学会（JSDR2021）、p.414	在宅療養中の高齢摂食嚥下障害者の同居の主介護者に対し質問紙調査を行なった。内容は、摂食嚥下障害者および主介護者の属性、退院指導の内容、退院後の摂食嚥下障害に関する困り事等とし、調査項目ごとに記述統計量を算出した。食事に関する介護負担感の高い者と低い者2群に分類し、調査項目についてχ2独立性検定を用いて比較した。その結果、退院後に介護者の半数以上に食事に関する困り事が生じており、介護者への指導技術の向上や退院後の生活における継続的支援が必要であることが示唆された。 本人担当部分：データ分析補助（担当頁特定不可能） 共同著者名：永野彩乃、徳重あつ子、 岩﨑幸恵
4.全身浴と手浴が循環動態と心理面に及ぼす影響	共	2021年8月	日本看護研究学会誌、44（3）、p.434	20歳の健康な女性15名に対し、10分安静(以下前安静)後，湯温約40℃の手浴/全身浴を10分行いその後60分安静(以下後安静)とした．客観的反応は，心拍数(連続測定)，血圧(前安静開始～後安静終了までに計6回)，唾液アミラーゼ(前安静開始～後安静終了までに計5回)を測定した．主観的反応は，施行後の状態を自由記載にて回答を得た。その結果、全身浴は，実施前後に心拍数の急激な増減を認め，循環動態へ大きく影響を及ぼすが，手浴は循環動態への影響がないことが示された．全身浴も手浴も唾液アミラーゼに有意な変化はなかったが，自由記載の内容から，リラックスを目的とする場合手浴は負荷がなく有効であることが示唆された． 本人担当部分：データ収集・分析補助（担当頁特定不可能） 共同著者名：山口晴美、片山恵、田丸朋子、 岩﨑幸恵
5.もの忘れ外来に受診同行する介護者の介護負担の実態	共	2021年6月	日本認知症ケア学会誌、20（1）、p.106	【方法】研究協力に同意が得られたA病院の「もの忘れ外来」の通院に同行する全介護者(家族・内縁者・近隣の援助者)を対象とし、自記式質問紙調査法を用いて行った結果、認知症の段階と各測定項目は、認知症が進行すると介護時間が増加し、抑うつ状態や介護負担の増加、睡眠状態が悪化することが示された。認知症のどの段階においても、介護者の負担軽減のための医療者の積極的な関わりが必要であることが考えられた。 本人担当部分：データ分析補助（担当頁特定不可能） 共同著者名：ブーマン栗山 珠枝、 千家 浩美、 徳重 あつ子、 岩﨑幸恵 、大饗 義人
6.高齢者の点眼失敗に着目した椅子の背もたれ使用の効果についての検証	共	2020年11月	第41回バイオメカニズム学会　学術集会	70歳代女性20名を対象に高齢者が点眼薬を的確に投薬するための点眼姿勢として，点眼時の背もたれの有無における点眼動作を分析した。その結果、以上のことより，背もたれ無しでは，失敗事例で有意に頚部伸展角度が小さく，点眼容器先端との接触による失敗リスクがあり，背もたれを使用すると点眼時に腰部が伸展することで頚部が伸展しやすく，更には点眼容器と眼が水平になりやすいと考えられ，点眼時における点眼容器先端との接触によるの失敗リスク軽減が望める示唆が得られた． 本人担当部分：データ分析補助（担当頁特定不可能） 共同著者名：工藤大祐、徳重あつ子、片山恵、 岩﨑幸恵
7.回想を引き出すための認知症高齢者との会話の検討	共	2020年9月	日本看護研究学会雑誌、43（３）p.501	介護老人福祉施設入居者4名を対象として，個人回想法を行った。回想法は，夕食後から就寝準備前までのくつろぎの時間帯に，1回20分程度を週2回，1カ月間実施した。回想に用いたものは，戦前・戦後の動画や写真を表示できる「対話ではじめるパソコン回想法（エヌ・プログレス社）」，昭和20～40年代の写真が掲載されている「昭和の暮らしで写真回想法（農文協）」，お手玉，メンコである。研究者は，対象者の生活背景などの情報は得ずに，これらのツールを用いて会話を行った。分析は，対象者のクローズド型の反応のみのものを除外し，回想に至った会話の検討を行った結果、 日常生活自立度がⅢ a やⅣの認知症高齢者でも，「はい」「いいえ」ばかりではなく，昔のことを思い出しながらの語りの確認ができたことから，回想を引き出すための会話としての「個人回想法」の有効性が示された。また，対象者の背景を知らなくても回想を引き出

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
				すことができたことから，ツールの利用は効果的であると考える。 本人担当部分：データ分析補助（担当頁特定不可能） 共同著者名：徳重あつ子、横島啓子、杉浦圭子、 岩﨑幸恵 、桧山美恵子
8.Social and Psychological Factors Associated to Preference of Solitude for Older Adults Living Alone in Japan	共	2020年9月	International Nursing Conference2020, https://www.twinc2020.tw/ Abstract Book V3 (2), p.1819	社会的孤立や孤独死と関連する独自志向性に関連する社会的・心理的要因を検討することを目的とした。大型公営団地で一人暮らしをしている65歳以上の高齢者294名を対象とし、質問紙調査を行った。結果として、参加者の独自志向性の総スコアが高かったのは、男性、若年層、そして外見上の社会的孤立（週に1回以上外出しない）。また人との会話を楽しむよりも一人で考えることを好むと回答した人は、ADLスコアが低くIADLスコアが低く、孤独感が強い、また、介護や家事、健康や経済的なことについての相談もなかったことが示された。 本人担当部分：データ分析補助（担当頁特定不可能） 共同著者名：杉浦圭子、横島啓子、徳重あつ子、 岩﨑幸恵 、桧山美恵子
9.臥床患者の背上げ後の背抜きに対する看護師の身体的負担と患者の安楽性	共	2019年11月	第29回日本健康医学会総会,p302-303（兵庫県）	20～50歳代の女性看護師19名に対して臥床患者の背上げ後の背抜きに対して、素手およびｸﾞﾛｰﾌﾞを用いた方法での看護師の身体への負担を明らかにすることを目的に実験を行った。実験は、1名の看護師が2名の患者のうちどちらか1名に対して、背抜きを素手で実施する群とｸﾞﾛｰﾌﾞを装着して実施する群の2群を設定して実施した。筋活動および主観的評価、身体に負担を感じた部位から検証した結果、素手で身体を起こす背抜きの方がｸﾞﾛｰﾌﾞを用いた方法より看護師の身体的負担が大きかった。素手群では、患者の身体を支えて起こすことに大きな力を発揮し、ｸﾞﾛｰﾌﾞ群では、患者の身体の下に右上肢を差し入れて滑らせたたであると考える。 本人担当部分：データ収集補助（担当頁特定不可能） 発表者：假谷ゆかり、阿曽洋子、片山 恵、 岩﨑幸恵 、木村清子
10..肥満体型高齢者の頭部挙上角度の違いからみた仙骨部・臀部血流量の比較	共	2019年11月	第29回日本健康医学会総会,p204-205（兵庫県）	シルバー人材センターに登録する標準体型高齢者14名を対象に頭部挙上20度時、25度時、30度時の仙骨部・臀裂部・左右臀部の4ヶ所の血流量を測定した。結果及び考察として、頭部挙上20度では、圧迫によるうっ滞は認めたが、血流量の減少は認めず、各部位に褥瘡発生につながる要因は認められなった。頭部挙上25度においては、圧迫によるうっ滞の後、20分経過後より血流量の減少が左臀部を除く部位においてみられていた。頭部挙上30度では、特に左右臀部にうっ滞の程度も大きく、その後の現象も他の角度よりみられた。これらより肥満体型の高齢者においては、褥瘡予防のための挙上角度として30度ルールを適応すると、特に臀部に負荷をかける可能性があると考えられた。 本人担当分：研究総括、データ収集・分析 発表者： 岩﨑幸恵 、杉浦圭子、片山 恵、田丸朋子、山口晴美、徳重あつ子、阿曽洋子
11.地域包括支援センターの看護師による閉じこもり高齢者の家族に対する介入内容	共	2019年9月	第50回日本看護学会-在宅看護-学術集会,p120（宇都宮市）	閉じこもり高齢者の家族に対して、地域包括支援センターの看護師が介入した内容を明らかにすることを目的に閉じこもり高齢者に介入したA市の地域包括支援センターの看護師のうち胴囲を得られた9名を対象とし研究を行った。半構造化面接の実施後得られたデータを質的に分析した。結果としては、看護師は閉じこもり高齢者の家族に対し長期間継続的に働きかけ、介護負担を軽減し、家族が主体性を持って行動し、疾患に対する理解を深め安心して介護ができるように介入していた。 本人担当部分：データ分析補助（担当頁特定不可能） 発表者：桧山美恵子、横島啓子、徳重あつ子、杉浦圭子、 岩﨑幸恵
12.Consideration of Conversation With Older Adult With Dementia by Individual	共	2019年7月	Sigma Congress 2019（CANADA）	認知症高齢者4名に対し、回想法を実施した。収集データは高齢者とその家族に対し週に2回約20分間インタビューを行いNIRSも測定した。その結果、回想法が前頭葉の活性化を促す事が示唆された。このことより、回想法は認知症の高齢者にとって効果的な方法であると考えられた。同じ回想法の素材を使用している場合でも、各回想

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
Reminiscence Therapy				をアクティブにする脳波の信号には個別性がある事も示唆された。 本人担当部分：データ分析補助（担当頁特定不可能） 発表者：徳重あつ子、横島啓子、杉浦圭子、 岩﨑幸恵 、荒木大治
13.全身浴と手浴の表面皮膚温の変化からみた手浴の全身浴代用としての可能性の検証	共	2018年12月	第38回日本看護科学学会学術集会（愛媛県）	全身浴の表面皮膚温の変化と手浴の皮膚温の変化を比較し、手浴が全身浴と同様の温熱効果を示し全身浴の代用が可能かを検証する事を目的とし20歳の健康な女子大学生18名を対象に実験研究を行った。10分間全身浴もしくは手浴を実施し、その後60分間安静とした。結果は全身浴と手浴はどちらも全身8箇所の皮膚温を上昇させ、手浴は全身浴と同様の温熱効果を示し全身浴の代用が可能であることが示唆された。 本人の担当部分：データ収集補助（担当頁特定不可能） 発表者：山口晴美、阿曽洋子、田丸朋子、片山　恵、 岩﨑幸恵 、上田記子、清水佐知子
14.全身浴との比較からみた手浴が及ぼすリラクセーション作用の検証ー成人女性の副交感神経活動に及ぼす影響からー	共	2018年10月	第26回看護人間工学部会　総会・研究発表会（兵庫県）	全身浴と手浴が成人女性の副交感神経活動へ及ぼす影響を比較し、手浴が全身浴と同様にリラクセーション作用をもたらすかを検証する事を目的とし、20歳の健康な女子大学生18名を対象に実験研究を行った。方法は、10分間の全身浴もしくは手浴を行い、その後60｣分間のベッド上安静とした。結果は手浴も全身浴も実施後安静にすることにより副交感神経活動が優位となりリラクセーション状態へ導かれていることから、手浴は全身浴と同様にリラクセーション作用をもたらすと考えられた。 本人の担当部分：データ収集補助（担当頁特定不可能） 発表者：山口晴美、阿曽洋子、田丸朋子、片山　恵、 岩﨑幸恵
15.健康高齢者に対する電動ベッドにおける身体負荷を考慮した背下げ方法の検討ー筋活動・主観評価の観点からー	共	2018年10月	第26回看護人間工学部会　総会・研究発表会（兵庫県）	電動ベッドにおける身体負荷を考慮した背下げ方法を筋活動と主観的評価の観点から検討する事を目的とし、70～75歳の女性高齢者11名を対象に実験研究を行った。研究方法は、背ボトムを60°から0°まで一気に下げる方法（対照群）と背ボトムを60°から30°まで下げたところで一旦止めて背抜きを行い、30秒の安静後に背ボトムを0°まで下げる方法（実験群）とし、対象者の筋活動と主観評価（VAS）を測定した。結果では対照群において筋活動が安静時より大きく、対象者は水平より下がると感じており必要以上の身体負荷がかかる方法であったと考えられる。一方実験群では筋活動が安静時より大きく、対象者は頭が水平より下がると感じていた。実験群は必要以上の身体負荷がかかる方法であるとは言い切れず、今後も様々な方法で検証する必要がある。 本人の担当部分：データ収集補助（担当頁特定不可能） 発表者：谷川　茜、藤田晴久、川原　恵、田丸朋子、 岩﨑幸恵 、片山　恵、阿曽洋子
16.高齢者に対する視覚運動系学習課題と認知機能評価テストとの関連性の検討	共	2018年6月	日本老年看護学会第23回学術集会	認知障害の評価の一つである視覚運動系学習課題検査と一般性の高い認知機能評価テストとの関連性の検討から、視覚運動系学習課題の有用性を考察する事を目的に高齢者71名に対して、視覚運動系学習課題およびMMSE、FABを行った。視覚運動系学習課題は従来の認知機能評価テストとの関連性も認められ、ms単位で認知機能の評価が可能であり、有用な検査方法であると考えられる。 本人の担当部分：データ収集補助（担当頁特定不可能） 発表者：杉浦 圭子、横島 啓子、久山 かおる、徳重 あつ子、 岩﨑幸恵
17.主観的指標による全身浴と手浴が及ぼすリラクセーション作用の検証	共	2018年3月	日本看護研究学会　第31回近畿・北陸地方会学術集会（兵庫県）	全身浴と手浴に対するリラクセーション作用を、主観的指標（POMS2）を用いて検証する事を目的とし、20歳の健康な女子大学生9名を対象とし実験研究を行った。実験方法としては、10分間の全身浴、手浴を行い、その後60分間のベッド上安静とした。主観的指標はPOMS2を用いて実施前、実施後、終了時の3時点で調査を行い評価した。結果・考察では全身浴・手浴ともに「緊張-不安」において実施前と終了時で有意に低下した。全身浴・手浴どちらも身体的な緊張が緩和され、ネガティブな気分が軽減したり疲労感が軽減したりとリラクセーションへ導かれていることが考えられた。 本人の担当部分：データ収集補助（担当頁特定不可能） 発表者：山口晴美、田丸朋子、片山　恵、 岩﨑幸恵 、清水佐知

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
				子、阿曽洋子
18.地域在住独居高齢者の生活パターンおよび心身の状況の実態	共	2017年6月	日本老年看護学会第22回学術集会（愛知県）	独居高齢者の生活パターンやそれに伴う心身の状況を正確に経時的に把握する事を目的に独居高齢者を対象に自宅でのバーコード読み取り機器を使用した調査を各自約2週間ずつ行った。その結果、本研究の対象者は地域の中でも活動的・意欲的な高齢者であり外出頻度も高く、独居であっても殆どが自立し規則正しい生活を送っていることがあきらかとなった。頻度は少なかったが身体の不調からくるネガティブ感情の表出がみられたことからそれらを早期に把握できるシステム構築が必要であると考えれられた。 本人の担当部分：調査補助（担当頁特定不可能） 発表者：杉浦圭子、横島啓子、久山かおる、 岩﨑幸恵
19.スライディングシート使用の有無によるベッド上での上方移動における介助者の腰部・頚肩腕部負担の有無	共	2016年10月	日本看護技術学会第15回学術集会（群馬県）	ベッド上仰臥位の被介助者の上方移動を介助する際にシートを使用する方法としない方法での介助者の腰部・頚肩部の負担や負担感を比較し検討する事を目的に看護学生に対して左右脊柱起立筋の筋電図を測定した。その結果、ベッド上仰臥位の上方移動に関してはシート不使用の方が負担と負担感が大きかった。ただし、シート使用の場合、シートを敷きこんだり広げたりする動作での負担軽減についても今後検討していく必要性が示唆された。 本人の担当部分：実験補助、実験指導、分析指導（担当頁特定不可能） 発表者：入江星香、福田　光、福田　礼、生田歩由香、杉本吉恵、岩﨑幸恵 、中岡亜希子
20.仰臥位から側臥位への体位変換における介助者の腰部負担ースライディングシートを用いてー	共	2015年10月	日本看護技術学会第14回学術集会（愛媛県）講演抄録集p126	仰臥位から側臥位へ体位変換をする際にシートを使用する方法としない方法での介助者の腰部負担を検討する事を目的とし、看護学生に対し左右脊柱起立筋の筋電図を測定した。その結果、腰部負担や腰部負担感はシート使用の方が不使用よりも軽減されていることが示唆された。シート使用は介助者の腰部負担軽減につながると考えられる。 本人の担当部分：データ収集補助、実験指導（担当頁特定不可能） 発表者：横山由佳梨、石橋　鼓、渡辺歩美、杉本吉恵、伊藤良子、山口舞子、中岡亜希子、 岩﨑幸恵
21.ストレス対処型別による好みの精油を用いた芳香浴のリラクセーション効果による検討	共	2015年10月	日本看護技術学会第14回学術集会（愛媛県）講演抄録集p108	好みの精油を用いた芳香浴によるリラクセーション効果について対象者のストレス対処型別に比較することを目的とし健康な看護学生に対し芳香浴と芳香浴なしの両方を同一の対象者に実施する準実験研究を実施した。ストレス対処型をストレス自己評価尺度により、問題焦点型、情動焦点型、回避・逃避型に分類し分析を行った結果、情動焦点型の対象者のみで実験開始時より芳香浴後のほうが有意にくつろいだ気分を示す値が増加していた。これらのことより情動焦点型の対象者では他の対象者に比べ芳香浴後に副交感神経活動が優位な時に出現しやすいα波含有率が有意に増加し、リラクセーション効果が得られやすくリラクセーション効果を得ることを目的とした芳香浴を実施する際には個人のストレス対処型により効果に差異を生じる可能性が示唆された。 本人の担当部分：データ収集補助、分析指導（担当頁特定不可能） 発表者：岡村香織、渋川萌美、山口舞子、中岡亜希子、杉本吉恵、岩﨑幸恵
22.皮膚組織血液循環評価装置の開発	共	2008年10月	バイオメカニズム（東広島）学術講演会予稿集第29回p.213－216	血流が熱移動の調節に主導的な役割を果たしているとの生理学的な前提で、皮膚組織の温度伝導率に着目し、冷却刺激を用いた皮膚組織温度伝導率の推定により皮膚組織血液循環を評価する装置を開発した。温度伝導率と血流量との相関関係と、健康高齢者に比べて長期臥床高齢者の温度伝導率が低い結果から、温度伝導率による皮膚組織血液循環評価の妥当性が確認された。このことから、新たな評価機器への応用の可能性が示唆された。 本人担当部分：データ収集補助（担当頁特定不可能） 発表者名：伊部亜希、阿曽洋子、羽賀知行、宮嶋正子、石澤美保子、 高田（岩﨑）幸恵
23.冷却刺激がもたらす	共	2008年8月	第10回日本褥瘡学	冷却刺激による皮膚組織の温度伝導率を推定が皮膚血流の評価指標

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
皮膚組織温度伝導と皮膚表在血流との関連			会学術集会(神戸市)	となりうるかを検討した。健康高齢者を対象とし、血流が増加した際に温度伝導率も大きくなり、血流量と温度伝導率に正の相関があることを確認した。このことより、温度伝導率が血流評価の指標となりうることが示唆された。 本人担当部分：データ収集補助（担当頁特定不可能） 発表者名：伊部亜希、阿曽洋子、羽賀知行、宮嶋正子、石澤美保子、 高田（岩﨑）幸恵
24.高齢者クラブにおける世代間交流事業の実態と子どもの印象からみた事業継続要因の分析	共	2007年6月	第49回老年社会科学会大会(札幌市)	高齢者クラブの世代間交流事業の実態を明らかにし、実施の有無と事業実態や評価、子どもの印象との関連を分析することで世代間交流事業の継続要因を検討することを目的とし、調査を行った。世代間交流事業の継続の有がより企画・運営への関わりが多く、事業評価も高い結果から、コーディネーターの存在や高齢者が企画から関われる配慮が必要であることが課題として挙げられた。 本人担当部分：データ収集補助（担当頁特定不可能） 発表者名：前田知穂、阿曽洋子、 高田（岩﨑）幸恵 、伊部亜希、片山恵、岡みゆき、徳重あつ子
25..高齢者の体型の違いからみた仙骨部及び臀裂部圧迫状況	共	2007年3月	日本人間工学会看護人間工学部会 第15回システム大会(八王子市)	女性高齢者を対象に、一般的な褥瘡予防の一つとして実施されている頭部挙上30度による体位が体型により仙骨部及び臀裂部の血流にどのような影響を及ぼしているのかを知る事を目的とし、血流測定を行った。その結果、臀裂部においても仙骨部同様、血流阻害を起こさない為の体位の工夫や圧迫予防用具の必要性が示唆された。特に体位変換後の圧迫緩和の必要性が示唆された。 本人担当部分：データ収集、分析、発表 発表者名： 高田（岩﨑）幸恵 、阿曽洋子、伊部亜希、片山　恵、宮嶋正子、徳重あつ子、岡　みゆき、前田知穂、木下慈子
26.仰臥位からシムス位への体位変換による消化管活動の実態	共	2007年3月	日本人間工学会看護人間工学部会 第15回システム大会(八王子市)	仰臥位からシムス位への体位変換が排便を促す看護援助になり得るかどうかの示唆を得るため、2名の健康女性を対象に実験を行った。いずれの被験者ともシムス位でのパワー値が増加し、便秘と判断された被験者において、腸蠕動音のパワー値が大幅に増加したことは、シムス位への体位変換による腸蠕動活動の変化には、自律神経系の影響は少なく、機械的な刺激の影響が大きいのではないかということが考えられた。 本人担当部分：データ収集補助（担当頁特定不可能） 発表者名：片山恵、阿曽洋子、伊部亜希、徳重あつ子、岡みゆき、高田（岩﨑）幸恵 、前田知穂
27.健康な高齢者におけるベッド上坐位姿勢の角度の違いによる自律神経活動の比較	共	2007年3月	日本人間工学会看護人間工学部会 第15回システム大会(八王子市)	ギャッチベッドを用いた坐位姿勢に着目し、健康高齢者を対象に、仰臥位から坐位へ姿勢を変化させた時の自律神経活動をヘッドアップ角度毎に評価し、生体に与える影響の検討を行った。HR、%LF、HFの変化は緩徐であり、また外的刺激の認識も鈍化していることから、日常生活に問題のない高齢者においても、加齢による機能低下の存在が推測された。このことから、機能維持のための積極的な働きかけの必要性が示唆された。 本人担当部分：データ収集補助（担当頁特定不可能） 発表者名：徳重あつ子、阿曽洋子、伊部亜希、岡みゆき、片山恵、高田（岩﨑）幸恵 、前田知穂、木下慈子
28.生理学的指標から見たシムス位の身体的安楽性の検証	共	2006年12月	第26回日本看護科学学会学術集会(神戸市)	シムス位が身体的安楽性に問題がある体位かどうか検証するため、健康成人女性を対象とし、仰臥位との比較を行った結果、副交感神経活性指標、ストレス指標、呼吸機能指標ともに両体位では有意差はみられなかった。このことから、シムス位の身体的安楽性は仰臥位と変わらないものであることと考えられた。 本人担当部分：データ収集補助（担当頁特定不可能） 発表者名：片山恵、阿曽洋子、伊部亜希、宮嶋正子、徳重あつ子、岡みゆき、前田知穂、 高田（岩﨑）幸恵
29.体圧分散マットレスにおける端坐位保持中の身体安定性の評価	共	2006年12月	第26回日本看護科学学会学術集会(神戸市)	体圧分散マットレスにおける端坐位保持中の身体安定性について、動作解析と主観調査から検証した。その結果、端坐位保持中の身体安定性は枠無ウレタンマット、エアマットで悪いことが明らかとなり、体圧分散マットレス使用者で離床を促す場合には、枠有ウレタンマットの選択やクッションや柵などで身体を固定するなどの対策が必要であると考えられた。

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
				本人担当部分：データ収集補助（担当頁特定不可能） 発表者名：岡みゆき、阿曽洋子、伊部亜希、徳重あつ子、片山恵、高田（岩﨑）幸恵 、前田知穂、矢野祐美子
30.健康若年者におけるベッド上での坐位への姿勢変化がもたらす脳活動　脳波、大脳局所Hb、心電図分析より	共	2006年12月	第26回日本看護科学学会学術集会(神戸市)	健康若年者を対象とし、仰臥位から坐位への姿勢変化が大脳を活性化させるケアとして有効かどうか検証した。その結果、受動的なベッド上坐位姿勢での大脳と交感神経活動の活性化を確認できた。これより、坐位姿勢には生体を活性化させる作用があり、看護ケアとして使用できる可能性が示唆された。 本人担当部分：データ収集補助（担当頁特定不可能） 発表者名：徳重あつ子、阿曽洋子、伊部亜希、片山恵、岡みゆき、前田知穂、 高田（岩﨑）幸恵 、矢野祐美子
31.高齢者クラブにおける世代間交流事業の実態調査　クラブ企画と事業評価・子どもへの印象との関連の検討	共	2006年12月	第26回日本看護科学学会学術集会(神戸市)	高齢者クラブの世代間交流事業の実態を明らかにし、クラブ企画と子どもへの印象との関連を検討することを目的とし、調査を行った。クラブ企画の有がより低学年との交流割合が多く、子どもへの印象も肯定的であった結果から、積極的な世代間交流事業の普及が重要であることが示唆された。 本人担当部分：データ収集補助（担当頁特定不可能） 発表者名：前田知穂、阿曽洋子、 高田（岩﨑）幸恵 、岡みゆき、徳重あつ子、片山恵、伊部亜希
32.高齢患者の清拭群とシャワー・入浴群との皮膚機能の比較からみた清潔ケア方法の有用性の検証	共	2006年12月	第26回日本看護科学学会学術集会(神戸市)	高齢患者の清拭群とシャワー・入浴群について、入院時と1週間後の皮膚機能（角質水分量・経表皮水分喪失量・表皮ｐH）を比較し、看護ケアとしての清潔ケア方法の有用性を明らかにすることを目的とした。ケア群間における1週間後の皮膚機能の変化には大きな違いは見られず、看護ケアとしてともに有用であると考えられたが、更に他の要因や期間に関する検討が必要であることが明らかとなった。 本人担当部分：データ分析補助（担当頁特定不可能） 発表者名：伊部亜希、阿曽洋子、宮嶋正子、岡みゆき、徳重あつ子、片山恵、前田知穂、 高田（岩﨑）幸恵
33.体型の違いからみた頭部挙上30度における仙骨部・臀裂部血流量への影響	共	2006年8月	第14回看護人間工学部会研究会(栃木)	成人女性を対象に、頭部挙上30度の体位を２時間持続した時の仙骨部及び臀裂部の血流量が体型の違いでどのように変化するかを検討した。その結果、体型の違いによって仙骨部及び臀裂部の血流量が変化する傾向にあることが示唆された 本人担当部分：研究総括、データ収集及び分析、発表 発表者名： 高田（岩﨑）幸恵 、阿曽洋子、前田知穂、伊部亜希、宮嶋正子、片山恵、岡みゆき、徳重あつ子、木下慈子
34.仰臥位から坐位への姿勢変化が生体に及ぼす影響－自律神経活動指標と左前頭葉局所Hb値の検討から－	共	2006年3月	日本人間工学会第14回システム連合大会(東京都)	健康成人を対象に、仰臥位から坐位への姿勢変化による脳活性を脳波で捉えることを試みた。仰臥位に比較し、30度坐位は違いはなかったが、80度坐位ではβ帯域、γ帯域の増加がみられ、主観調査でも覚醒度の高さを感じていた。 本人担当部分：データ収集補助（担当頁特定不可能） 発表者名：徳重あつ子、阿曽洋子、伊部亜希、岡みゆき、片山恵、高田（岩﨑）幸恵 、前田知穂、矢野祐美子
35.体圧分散マットレスの体圧分散能力と一対比較	共	2006年3月	日本人間工学会第14回システム連合大会(東京都)	標準マットレスに比較すると体圧分散マットレスは起き上がり時の肘の沈み込みが大きくなるが、肩腰のひねり角度や体幹屈曲角度には違いはみられなかった。これらのことから、筋負荷も考慮した起き上がり動作の分析が必要であることが明らかとなった。 本人担当部分：データ収集補助（担当頁特定不可能） 発表者名： 岡みゆき、阿曽洋子、伊部亜希、徳重あつ子、片山恵、高田（岩﨑）幸恵 、前田知穂、矢野祐美子
36.脳波からみた坐位姿勢援助の有効性に関する基礎的研究　―パイロットスタディ―	共	2005年9月	第13回看護人間工学部会研究発表会（京都市）	ギャッジアップ坐位に着目し、健康成人を対象に、仰臥位から坐位への姿勢変化による脳活性を脳波で捉えることを試みた。仰臥位に比較し、30度坐位は違いはなかったが、80度坐位ではβ帯域、γ帯域の増加がみられ、主観調査でも覚醒度の高さを感じていた。これらより、脳活動を脳波で捉えることが可能であることが明らかとなった。 本人担当部分：データ収集補助（担当頁特定不可能） 発表者名：徳重あつ子、阿曽洋子、伊部亜希、岡みゆき、片山恵、高田（岩﨑）幸恵 、前田知穂、矢野祐美子

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
37..3次元動作解析による体圧分散マットレス上での起き上がり動作の評価	共	2005年9月	第13回看護人間工学部会研究発表会（京都市）	体圧分散マットレスについて動きの観点から評価することを目的に、起き上がり動作時の生体負担についてデータを得た。標準マットレスに比較すると体圧分散マットレスは起き上がり時の肘の沈み込みが大きくなるが、肩腰のひねり角度や体幹屈曲角度には違いはみられなかった。これらのことから、筋負荷も考慮した起き上がり動作の分析が必要であることが明らかとなった。 本人担当部分：データ収集補助（担当頁特定不可能） 発表者名：岡みゆき、阿曽洋子、伊部亜希、徳重あつ子、片山恵、高田（岩崎）幸恵 、前田知穂、矢野祐美子
３．総説				
1.褥瘡予防・改善に向けた日常ケア	単	2022年12月	認知症ケア23（4）,pp41-48	主に高齢者施設で勤務する看護職・介護職に対して、褥瘡の基礎知識から、予防方法までを、自身の経験と最新の知見を組み合わせて、臨床でも取り入れやすいように解説した。
４．芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
５．報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
1.第36回日本看護研究学会近畿・北陸地方会	共	2023年3月5日	第36回日本看護研究学会近畿・北陸地方会　交流集会	「機器を使用した研究の実際と留意点」をテーマに交流集会にて発表を行った。自身の担当箇所では、主に褥瘡予防における実験研究をテーマに、レーザー血流計や体圧計を用いた研究について、研究の実際と留意点について紹介した。
2.第31回日本看護研究学会近畿・北陸地方会	共	2018年3月17日	第31回日本看護研究学会近畿・北陸地方会　交流集会	「臨床現場における認知症ケアの質向上」をテーマとし、認知症高齢者のケアの質を上げるための取り組みについて、ディスカッションのサポートを行った。
６．研究費の取得状況				
1.介護老人福祉施設における背面開放座位介入時の自律神経活動と皮膚血流量の検証	単	2023年4月～	科学研究費補助金（基盤研究C） 課題番号：23K10278	介護老人福祉施設に入居している臥床高齢者（以下臥床高齢者とする）を対象とし、背面開放座位姿勢をとることにより、自律神経活動および皮膚血流量にどのような影響を及ぼすのかを明らかにする。 助成金：468万円 本人の担当部分：研究総括、データ収集、分析 共同研究者：あり（研究代表者）
2.褥瘡予防効果向上のためのベッド頭部挙上角度からみた体型別最適褥瘡予防体位の検討	単	2018年4月から2023年3月	科学研究費補助金（若手研究） 課題番号：18K17476	標準および肥満体型の者に対する褥瘡予防のための適切な頭部挙上角度を検証することを目的にベッド挙上25度時、20度時の臥床時の仙骨部・臀部血流量および体圧を測定し経時的変化をみる実験研究を行う。 助成金：403万円 本人の担当部分：データ収集、分析 共同研究者：なし（研究代表者）
3.体型別褥瘡予防ケア開発の為の基礎的研究-肥満体型高齢者の褥瘡好発部位の検討-	単	2013年6月から2016年3月	科学研究費補助金（若手B）課題番号：25862119	体型差を考慮した褥瘡予防ケア開発の為の基礎的研究として、肥満体型高齢者の褥瘡好発部位を明らかにする事を目的とし、健康女性及び、健康女性高齢者の仙骨部・臀部血流及び体圧測定を行った。 助成金：160万円 本人担当部分：データ収集、分析 共同研究者：なし（研究代表者）

学会及び社会における活動等	
年月日	事項
1.2021年から2022年	NPO法人大阪南コミュニティカレッジ外部講師
2.2019年3月10日	第16回日本褥瘡学会近畿地方会学術集会　実行委員
3.2018年10月27日	第26回看護人間工学部会　総会・研究発表会実行委員
4.2018年3月17日	日本看護研究学会　第31回近畿・北陸地方会学術集会　実行委員
5.2017年4月から2018年3月	兵庫県立宝塚高校「看護とケア」出張講義